

②御殿山エリア

下に江戸湊を見下ろす高台で、徳川家康が建立したと伝えられる品川御殿があったため御殿山と呼ばれるようになりました。開国後の文久元年(1861)、幕府は英国公使館を御殿山に建設しましたが高杉晋作ら攘夷志士による英国公使館焼き討ち事件により全焼しました。現在はインテリジェント・シティ“御殿山ヒルズ”として御殿山ガーデンや、御殿山トラストタワー、東京マリオットホテルなどを擁して賑わっています。



富嶽三十六景 東海道品川御殿山ノ不二 葛飾北斎

③旧東海道エリア

旧東海道と目黒川が交差するこのエリアは東海道五十三次の第一宿、品川宿として古くから賑わいをみせていました。数多く寺社が残っており、南の天王と呼ばれる“荏原神社”、東京十社のひとつでもある“品川神社”、沢庵和尚や島倉千代子等の墓がある大山墓地を有する“東海寺”が有名です。



荏原神社の寒緋桜

④天王洲エリア

天王洲は土砂が堆積してできた洲でした。1751年(宝暦元年)に船人が牛頭天王の面をこの海域から引き上げたことから「天王洲」の地名の由来となっています。1925年(大正14年)から埋立が始まり品川と陸続きとなり工場や倉庫の用地として利用が始まります。その後、再開発が始まり“シーフォート・スクエア”を始め数々の高層オフィスビルが立ち並びます。ランドマークにもなっている醸造所を併設したブルワリーレストラン「T.Y.HARBOR」は水上利用「運河ルネサンス構想」第1号店として水上ラウンジをオープン。さらに水上イベントスペース「T-LOTUS M」をオープン、舟運の社会実験など常に最先端スポットとして進化を続けています。

天王洲運河からのT.Y.HARBOR BREWERY



大崎・五反田 天王洲アイル 駅周辺

しながわ

目黒川・天王洲を巡る

品川逍遙

写真 居木神社

目黒川とは

目黒川の河口付近は古くは「品川」といい、これが「品川」の起こりとされており。江戸時代には、その上流の下目黒付近では「こりと川」と呼ばれており、「こりと川」は「垢離取り」の意味、この川で身を清めてから目黒不動尊に詣でた事から名付けられたとされます。時は流れ、明治になり目黒川沿いには、いち早く鉄道が敷設され、官営品川硝子製造所が設立されるなど近代工業の先駆けとなりました。近年では、工場跡地などの再開発により新しい街がつけられています。



①大崎再開発エリア

大崎は目黒川を望む高台であり、周辺からは縄文時代の土器や貝塚などが出土している事から古くから栄えていたと考えられています。室町時代には、品川宿から多摩地域への街道のため、目黒川に居木橋(いるきばし)がかけられました。



大崎 夢さん橋

近年は1980年代後半より事業が始まった大崎駅東口地区の再開発によって、大崎ニューシティ、ゲートシティ大崎などの複合施設が相次いで開業し、東京副都心の1つとしてにわかに脚光を浴びるようになりました。さらに再開発は進行しており、明電舎跡地にThinkParkが、ソニー旧大崎西テクノロジセンター跡地にNBF大崎ビルが、西口には大崎ウィズシティオープンし大崎駅西口バスターミナルが整備された。また、もともと山手線の始発駅である大崎駅は、埼京線乗り入れ、東京臨海高速鉄道りんかい線開通、湘南新宿ラインの運行開始などにより、大規模なターミナルへと変貌しました。

一般社団法人 しながわ観光協会
SHINAGAWA TOURISM ASSOCIATION

☎03-5743-7642
2018年2月発行
<https://shinagawa-kanko.or.jp/>
〒140-0014 品川区大井1-14-1 大井1丁目共同ビル1F
【営業時間】午前9時30分～午後5時 【休館日】祝日・年末年始



1 居木神社と居木橋貝塚 品川区大崎3-8-20

もともとは目黒川沿い居木橋附近にありましたが度重なる水害を避け、今の場所に移転。主神は日本武尊ですが学問の神様 菅丞相(菅原道真公)も祀られています。また、敷地内より縄文時代の貝塚や住居跡、土器などの遺跡が出土、居木橋貝塚と呼ばれています。



目黒川に架かる橋

目黒川には数多くの橋と鉄橋が架かっています。橋の竣工年は様々でそれによりトラス橋やアーチ橋等、色々な形式の橋を見ることができます。橋にスポットをあてた散策もオススメです。

- 1 **昭和橋** 新目黒川の開さくによって、その河口に架けられた橋。昭和5年に竣工したため昭和橋と名付けられた。
- 2 **洲崎橋** 目黒川の造り出した砂地の上に来た漁師町の古い呼び名である洲崎より名付けられた。
- 3 **新品川橋** 正確な由来は不明だが品川橋の下手に架けられたのでこの名になったと思われる。
- 4 **品川橋** 旧東海道 品川宿の中心にある事から品川橋と呼ばれた。別名、堺橋、行合橋、中の橋と呼ばれる。
- 5 **鎮守橋** 南品川寄りの荏原神社氏子の抛出によって架けられた橋。南品川の鎮守、荏原神社にちなみ名付けられた。
- 6 **荏川橋** 旧荏川町が由来。荏川町とは荏原川(荏原郡を流れる川)つまり目黒川の別称に由来している。
- 7 **東海橋** 第一京浜の橋。由来は旧東海道の名をとったものか、橋のたもとの東海寺からとったものかと云われている。
- 8 **要津橋** 元々は東海寺の境内にあった橋。明治時代には住民の抛出により架けられていた。
- 9 **三獄橋** 祀られていた御嶽権現から、この地は三岳または三竹と云ったがその地名をとって橋名とした。
- 10 **居木橋** 橋名の起源は古く、名の由来は橋がゆらゆらと動く様からゆるぎ(震動の意)ぱしとなつたと云われる。
- 11 **森永橋** 橋名は何時頃つけられたか不明。森永製菓工場が付近にあった事より名付けられた。なお工場は大正時代に移転。
- 12 **小関橋** 旧東海道へ抜ける道に小さな関所があった事から小関橋と呼ばれる様になった。
- 13 **鈴懸歩道橋** 近くにプラタナスの木がある事からプラタナスの和名である鈴懸の名を使用。歩行者専用の橋。
- 14 **御成橋** 別名、御鷹野橋。徳川将軍家が鷹狩の際に橋を架けた事から名付けられたと云われる。
- 15 **山本橋** 昭和初期に山手線に沿ってあった山本鉄工所に由来。当初は工場の専用の橋であった。
- 16 **ふれあいK字橋** 歩行者専用橋。橋を上から見るとアルファベットのK字に見える事から名付けられた。
- 17 **大崎橋** 旧中原街道の橋。古くはこのあたりを大崎と呼び、江戸時代に編まれた「新編武蔵風土記稿」にも登場する。
- 18 **五反田大橋** 桜田通りの橋。周辺の水田が一区画がら反だった事から五反田となり、その名から橋名がつけられた。
- 19 **本村橋** ほんむらばし。その昔、周辺の地名が本村、谷山、本村附だった事に由来する。
- 20 **谷山橋** ややまばし。別名庚申橋、立会橋とも云う。橋の上には首都高二号目黒線が通っている。
- 21 **市場橋** 中央卸売市場荏原分場の入口に架した橋。市場移転後は目黒川の水を貯める地下調整池が設置されている。
- 22 **亀の甲橋** その昔、目黒川をのぞんだ所に亀の甲の形をした出洲があり亀の甲島と呼んだ。その名から名付けられた。



2 大使館の数々

品川区の目黒、五反田、大崎エリアには数多くの大使館、領事館があります。大使館によってはイベント等で一般開放することもあります。



- 桜名所
- H ホテル
- T トイレ

ひなかなPLAZA

りんかい線で天王洲まで
大井町駅~天王洲アイランド駅 約4分

2018.2.現在